

## 伊方3号機 運転差止仮処分 抗告審

# 「審理は拙速にせず」と裁判長は表明

11月16日、伊方原発運転差止仮処分事件の即時抗告審が高松高裁で始まり、第1回の審尋がありました。国策追随で安直に原発稼働を容認した松山地裁決定（7月21日）を不服として、須藤昭男さんなど住民10名が即時抗告したことによるもの

です。裁判長は「拙速な審理はしない」と明言し、次回は2月13日、次々回は5月16日（いずれも15時開始）の審尋日程が決まりました。

【詳報は4Pに掲載】



2017/11/16 高松高裁の門前まで歩む



高松高裁前にて、「決定書面は人格の診断書、良心の証明書」と示したパルーン

### もくじ

- 1P 高松高裁での伊方仮処分抗告審
- 2P 総会報告／署名集中アクション始まる
- 3P 2017年度原子力防災訓練を見て
- 4P 高松高裁抗告審の審尋から／伊方原発は4裁判所での争いに
- 5P 伊方原発2・3号機廃炉を知事に申し入れ
- 6P 脱原発運動の人々 連載インタビュー（その3）
- 7P 同上／「人命より採算許せぬ」四電に抗議
- 8P 2016年度会計報告、日程、編集後記

# 第7回総会を開催

10月1日、伊方原発をとめる会の第7回定期総会が松山市のコムズで開催され120名が参加しました。



総会の様子 コムズ大会議室にて

草薙順一事務局長は挨拶で、松山地裁仮処分 の 不 当 決 定 と 「 原 子 力 白 書 」 を 厳 しく 批 判 し ました。

記念講演で山崎知行医師は、子どもの健康相談に取り組む中で、疲れやすいとの訴えが広く継続していると報告。子どもの甲状腺ガン原発事故との関係を軽視することなく見ていく必要を語りました。【詳細はホームページをご覧ください】

総会冒頭には、伊方原発をとめる弁護団の薦田伸夫さんが、原発訴訟に関する全国状況も含め、伊方原発運転差止の裁判及び仮処分即時抗告に至る状況を報告しました。

新たな方針として、えひめ県民署名の成功に向け、同署名の会とともに全力をあげるとしました。裁判では、高松高裁での伊方仮処分抗告審、及び伊方運転差止の本訴での勝利を目指すことを確認しました。そして、予算と役員を決定しました。

閉会挨拶を須藤昭男さんが行いました。福島原発を絶対にくり返してはならないとの決意を語り締めくくりました。

## 署名集中アクションが始まる

原発のない暮らしを求めるえひめ県民署名の会は、地域での署名集めを重視しています。ようやくその具体化が始まっています。

### 東温市でチャレンジ

11月12日、「署名集中アクション」が東温市で行われ、田窪地域でとりくみました。日曜日の午前2時間を行動にあてました。12名が参加し、5つの班に分かれました。署名集めは実質90分ほどでしたが128筆を集めました。

### 四国中央市の川之江でも

翌週の19日には、四国中央市の川之江で「署名集中アクション」が行われました。地元から15名、松山から4名、香川から3名の計22名で11班をつくりました。署名の訴え方等について話し合ったのち、市内の11箇所に向けて出発しました。

正午までの、実質70～80分の署名行動でしたが、時折小雨が降り寒さも増してくる中での取り組



写真は川之江での出発前の打合せ

みとなりました。班当たり平均26筆余を集め、288筆を集約しました。

地道な取り組みですが、署名の伸びしろを作る取り組みとして継続が期待されています。

# 2017年度原子力防災訓練を見て

安藤哲次（伊方原発をとめる会）

2017年11月14日（火）に行われた原子力防災訓練の観察に出向いた。今回は原発より西に住む住民の、海路での大分への避難を拡充していると言うので井野浦ムーンビーチと三崎港に行った。

## 砂煙と内部被曝は

井野浦ムーンビーチは三崎港から海岸沿いに3kmほど南へ行っただけにある人工の砂浜でキャンプ場もある。この砂浜に海上自衛隊のエア・クッション型揚陸艇（軍用車両が5～6台積める大型ホバークラフト）が上陸し避難者50人を乗せ母艦「しもきた」で別府港へ運んだ。

ホバークラフトがものすごい水しぶきを上げながら進んできて砂浜に上陸した。雨が降っていたのであれでも砂煙は抑えられていたのだろうが、原発で事故が起きているのであれば放射性物質をまき散らすことになりそうである。バスで移動してきた避難者はマスクもせず放射性物質からの何の防御もしていなかった。

## 津波で港や浜はどうなる

派手なデモンストレーションであるが三崎半島でホバークラフトが上陸出来るのは井野浦しかない。三崎半島の海岸線には平地がほとんどなく、あっても防潮堤や波消しブロックがあり上陸できない。三崎港と井野浦の間にある高浦と大佐田の集落は海拔2mもない。南海地震の愛媛県の津波予想は三崎港で3.9m、伊方町の津波ハザードマップで高浦と大佐田と井野浦の浸水は集落のほとんどが5～10m、一部10～20mの地域もある。避難者は井野浦まで行くことは不可能である。今回の



雨の後だったが猛烈に潮と砂ボコリを巻き上げる人々の内部被曝が心配だ



ホバークラフトの中は軍用車両などを積む空間 人々は奥のプレハブのようなスペースに入る

ホバークラフトを使った避難訓練は自衛隊の宣伝になっただけではないか。

## 三崎港も津波に襲われる

三崎港からはフェリーの定期便を使って284人を3回に分けて佐賀関へ運んだ。船に乗る前にスクリーニングをしていたが、ここでも避難者はマスクもせず放射性物質からの何の防御もしていなかった。

三崎港も伊方町のハザードマップではフェリー乗り場の浸水が10～20mである。フェリーを使っただけの避難など机上の空論である。原発から西に住む人は4,500人以上、今回ホバークラフトやフェリーで避難した人は334人。

今回の避難訓練で分かったことは、原発より西に住む人は避難できないということである。



三崎港でのスクリーニング。マスクなく内部被曝への配慮はない

# 高松高裁抗告審の審尋から

提出済みの書面の確認から始まりました。住民側からは即時抗告申立書とこれを補充する書面2通及び関連する証拠を提出し、四電側は答弁書と書面2通及び関連する証拠を提出しました。

その後、住民側弁護団は今後の主張立証の予定として、四電提出の答弁書及び書面2通に対する反論、基準地震動をめぐる松山地裁決定の批判の補充、北朝鮮のミサイル問題についての主張立証、12月上旬予定の伊方原発をめぐる広島高裁決定を踏まえた主張、火山問題での主張の補充の予定を述べ、次の審尋日程を決定しました。

## 2回の審尋日程決まる

双方の代理人弁護士以外は退席し、今後の進行について打ち合わせをしました。即時抗告審の場合、1回の審尋で審理を打ち切って決定を出すことも法律上は可能ですが、裁判長は「拙速な審理はしない」と明言しました。

住民側弁護団は、松山地裁段階を含めると膨大な資料を提出済みであるためそれらを踏まえた丁寧な審理を希望し、これに対して四電側は特段反対を示さず、次々回の日程を設定しました。住民側弁護団が学者・専門家の証人尋問の実施を求める



「高裁は司法の矜持を示せ」のバルーンを掲げる支援者



香川県弁護士会館での報告集会

ことを検討していることを述べましたが、四電側はこれに反対し、この点は保留して審尋は終了しました。

## 入廷行進に取材陣多数

審尋に先立って、約70名が高裁前で入廷行進をし、入廷する住民や弁護団などを激励し送り出しました。愛媛からは弁護団を含め19名でしたが、地元香川の「とめる会」関係者をはじめ広島や徳島などの支援者がそれぞれに華やかなバルーンやのぼり旗、プラカードを掲げて参加しました。この行進には多くのマスコミが駆けつけ、関心の高さが表れていました。

また、審尋の終了後は香川県弁護士会館で、記者会見と報告集会を開催。詰め掛けたマスコミから、「次々回の審尋で打ち切るのか?」「証人尋問は誰を?」などの質問が出され、「5月で終結とは思っていない」「学者専門家のレベルを想定している」などの応答で会見を終えました。

その後報告集会に切り替え、裁判の当事者である7名と支援者それぞれがこの闘いに賭ける決意や思いを述べました。報告集会には約80名が参加しました。

## 伊方原発は4裁判所での争いに

福島原発事故から6年8カ月。いくつかの裁判所でまるで福島原発事故がなかったかのような、事故以前の安全神話さながらの決定が続いています。いま現在、伊方原発をめぐる仮処分裁判に限定すると、高松高裁以外にも三箇所の裁判所で争われています。その概況です。

### 12月上旬の広島高裁に注目を

広島高裁では、運転容認の広島地裁の決定(3月)を不服とする即時抗告が争われています。10月4日に双方が書面を出し終え審理が終結し、12月上旬の裁判所の決定を待つばかりです。この裁判は被爆地広島の裁判として注目されていますが、愛媛からは小倉正さん(松山市)が原告人として参加しています。この間の審理では、裁判官が四電側書面について細部にわたりの確な質問をして

いることなどから、裁判所の判断が待たれています。

大分地裁では、10月11日に審尋があり、次回の審尋12月20日が予定されています。ここでは12月予定の広島高裁決定の横にらみ状態となっています。

山口地裁岩国支部は、本格的な審理はこれからという段階で、立証計画として愛媛大学元学長の小松正幸さんによる第三者審尋の実施などが予定されています。

# 伊方2・3号機廃炉へ知事宛申し入れ

11月27日、伊方原発をとめる会は愛媛県知事に対し申し入れを行いました。(下枠参照)

県庁第二別館 1F の県民環境部会議室で申し入れが行われました。とめる会から、草薙順一事務局長、須藤昭男共同代表、和田幸事務局次長、松浦秀人幹事、安藤哲次事務局員が出席。また、村上要(社民)、田中克彦(共産)、武井多佳子(市

民の窓)の県議会議員3名も同席しました。県側から大橋良照・原子力安全対策推進監ほか6名の職員が対応しました。

## 原発なくても電力を外に売っていた

草薙事務局長の挨拶のあと、和田事務局次長が申し入れを読み上げ、資料説明を行いました。資料では、伊方の全原発停止から4年経過した時点でも他の電力会社に融通・販売していた事実や、老朽原発2号機の危険性を指摘しました。

大橋推進監は、2号機について「四電の判断を見ている」として、県側から働きかける予定はない旨の消極的な返事に終始しました。

参加者からは、原発の危険性、使用済み燃料の問題にも触れて、原発の運転をやめ廃炉に向かわせるよう、強く繰り返し申し入れました。

## 四電社長が2号機の判断にふれ

同27日、高松市では四電社長が記者会見し、2号機の再稼働か廃炉かの判断時期を、年末から年度末目途に変更すると言明しました。「2号機については、再稼働を目指す場合、重大事故を防ぐ安全対策工事が技術的には可能」とし、電力需給も含め検討したいとしています。老朽原発の使用を否定しない危険な兆候です。



2017年11月27日

## 伊方2号機・3号機の廃炉を求める申し入れ

四国の電力は十分に余っています。「四国電力の概要と現況」(四国電力発行)によれば、伊方原発が全機停止して4年余り経過した2016年3月時点でも、他社への融通送電等は1,770百万kWhで168億円の販売電力料を得ています。2017年3月には、これが4,710百万kWh、398億円に増えています。

四国電力は、他事業者への卸販売と首都圏、関西圏での電力小売り販売の拡大を目指しており、伊方原発の3号機ばかりか1号機と同系の老朽化した2号機について、「2号機の安全対策は、すでに再稼働した3号機より機器数も少なく高くなることはない」としていることは極めて危険な兆候です。

このまま、県政が四国電力の方針に追随するならば、四国はいつまでも危険な「原発の島」にされてしまいます。しかも、原発の運転を続け

る限り、危険で処理方法の見通しがたたない使用済み核燃料が増え続けます。すでに貯まっている使用済み核燃料と高濃度汚染物質の処理方法すら見いだせない現状からすれば、原発の運転を続けることは許されません。

中村知事は伊方原発の再稼働に同意し、四国及び広範な地域住民の命と暮らしに直接重大な影響を及ぼしました。重大な責任が生じています。知事は、四国電力への追随をとりやめ、広範な地域住民の命と暮らしを守る方向に転換すべきです。

ついでに、下記の2点を申し入れます。

記

1. 老朽化した伊方原発2号機の再稼働申請を許さず、ただちに廃炉に向かわせること。
2. 点検停止中の伊方原発3号機を稼働しないまま廃炉に向かわせること。

## 市民と運動のパイプ役を

松山市では環境問題に取り組むイベント、「ライブ・アースまつやま」が、3千人規模で毎年開催されています。野外コンサートを軸に子どもから大人までが参加するイベントですが、その提唱者である高岡大輔（たかおかだいすけ）さん（37歳）に聞きました。

### 本業は美容師さん

問 ご出身は？

高岡 松山で生まれ育ちました。高校卒業後は大阪の美容学校に進学し、2年後の卒業と同時に20歳で美容師免許を取り、大阪で就職しました。

問 就職後は、どんな生活でしたか？

高岡 いずれは松山に帰って開業したいと願っていたので、その元手を貯めるためにがむしやりに働きました。休日は勉強会に参加し、休み無しでした。

問 いつまで大阪にいましたか？

高岡 4～5年間働いて松山に戻り、最初は実家のスペース内で開業し、数年後に今の美容室「track time (トラック・タイム)」(編集部注：松山市山西町所在のオーガニックヘアサロン)をつくりました。

### パリに1ヶ月暮らして

問 その頃、パリに滞在経験があると聞きましたが、きっかけは？

高岡 「若いうちに芸術の都パリを見ておくべきだ」が口癖の大阪の知人(デザイナー)がいて、その言葉が忘れられず、松山に戻り開業前の自由な時間があって・・・。

問 どれくらいの期間、何をしていましたか？

高岡 ひと月です。パリで美容師をしている友人がいたので、友人宅に転がり込みました。ルーブルなどの主な美術館、ベルサイユ宮殿や凱旋門など市内の主要観光地は全部巡り、その後は住人気取りでスーパーマーケットにも出入りし、カフェや喫茶店、バーなどでのんびり過ごしました。



イベントへの思いなどを語る高岡大輔さん

問 ところで、フランス語は話せたのですか？

高岡 今は忘れましたが、身振り手振りを交えて日常生活が何とか出来る程度の会話はしていました。と言うのも、「フランス語でないと、英語で尋ねても何も教えてくれない」と知人から事前に聞いていたので、多少は勉強してから行きました。

問 パリでは何を感じ、何を得ましたか？

高岡 日本人の暮らしは逆転していると思いました。あちらでは楽しむために生きているのに、日本人は仕事、仕事で楽しむことを忘れていていると感じました。

### 野外エコフェスの開催へ

問 大阪での修行中にアフリカの民族楽器に魅せられたとか？

高岡 「ジャンベ」というアフリカ太鼓、オーストラリアの民族楽器ディジュリドゥ、という楽器で友人たちでバンドを組んだり、遊んでいました。

問 音楽への関心から「ライブ・アースまつやま」が生まれたそうですが・・・。

高岡 歌手UA(うーあ)さんが出るというので、ファンの僕は東京の「アースデー東京」に参加しました。エコロジーとライブを融合させたこのイベントに心を揺さぶられました。「取り組みたい」と思って、翌年の2008年に北条市(当時)で第1回目の「ライブ・アース」に取り組みました。当時26歳で何の経験もない若造でしたから、あちこちで壁に突き当たりましたが、いろんな方の協力を得て開催に漕ぎ着けました。そのときの参加者は千人でした。その後毎年5月に開催し、今年で10回目です。今では堀の内公園の恒例イベントです。

### 「ライブ・アースまつやま」とは

問 県外の読者もいるので、「ライブ・アースまつやま」について説明してくれますか？

高岡 野外イベントです。コンサートやトークライブのほか、100店舗以上の出店があり、飲食エリアや生活雑貨エリア、スケートボードやボルタリングができるエリアもあります。イベントを通じ、あまり関心がない層にも環境問題を考える機会を提供

するのが狙いです。原発はもちろん人権や平和もそうです。毎年3千人ほどの参加者です。

そして、ゴミを最小限に抑えるため、飲食エリアではレンタル食器を用意しリユースします。デポジット制を取り入れ、貸出時に食器1点につき100円を預かり、返却時には返金する仕組みをとっています。この仕組みは「アースデー東京」から学びました。

### 留意していることは

問 そうした大規模なイベントを毎年開催するにはご苦労も多いでしょうが、どんなことに留意していますか？

高岡 スタッフは全員20～30代ですが、それぞれの得意分野を活かして参加してもらっています。役所に強い人（交渉をする）、デザインの巧い人（宣伝物の作成）、お店に顔が広い人（宣伝物を貼り置いてもらう）など、総合力で取り組んでいます。

問 「ライブ・アースまつやま」の将来構想は？

高岡 お祭りとしてより楽しいものにし、参加者をさらに増やしたいです。市民がつくる（行政支援無し）祭りが大きくなれば、やっぱり僕たちが伝えたい事が、より社会的影響力を作れるんじゃないかと。

### 事故がなくても始末に負えない

問 原発問題に気づいたのは、いつ頃ですか？

高岡 大阪から松山に戻った直後に、反原発に取り組んでいる方と親しくなり、自分が何も知らなかったことに気づいて愕然としました。理美容やファッションの業界は情報が命のはずなのに原発情報は届いていません。マスコミの情報操作を感じました。

問 いま特に訴えたいことは？

高岡 原発賛成の人は経済的なことを言うけど、その人たちには廃炉ビジネスが継続することをもって訴えて行けばよいように感じます。それは実は、核のゴミが何世代も継続することを意味するのだけだ。

事故が起きなくても運転が止まってもお荷物が残ることも強く伝えていくべきだと感じています。多くの方が原発の危険性を知り政府がウソを言っていることも気づいていて、どうしたら良いのかという気持ちだと思います。そこを突き動かす訴え方が必要なのではないかと思います。若者も含め、脱原発運動に参加していない層と運動団体とを結ぶパイプラインが必要で、その役割を担いたいとも考えています。

## 伊方再稼働強行から1年 8・10抗議行動

8月10日夕刻、四国電力原子力本部前で行われた抗議行動には、約70名が参加しました。参加者は、伊方3号機の再稼働強行から1年、住民の命と暮らしを危険にさらし続けていることに強く抗議しました。また、午前中の四電社長あての申し入れを紹介したチラシも配布しました。



「命より採算」断じて許せぬ！ 四国電力原子力本部前にて

## 「命より採算重視」に強く抗議（8/10）

8月10日午前、伊方原発をとめる会は四国電力原子力本部に出向き、社長宛の申し入れ文書を手渡しました。とめる会から須藤昭男、大原英記ほか計7名が出席、四国電力側は木村広報グループリーダーなどが対応しました。

申し入れ書で、3号機の運転を直ちに停止し伊

方原発を廃炉に向かわせるよう強く求めました。また、四電社長が原子力規制委員会で原発40年期限に「妥当性議論」を求めたことについて、「追加安全対策工事」なしに40年を超えて、2号機を使える道を探ろうとするものとして、「命より採算重視」の姿勢に私たちは厳しく抗議しました。

## 伊方原発をとめる会 2016年度会計報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)

<収入>

(単位：円)

前年度繰越金	560,034	
個人会費	1,704,000	
団体会費	257,000	
カンパ	1,984,901	集会カンパ、郵便振替など
事業収入	303,290	漫画パンフ売上、映画会収入
雑収入	57	預金利息など
預り金	36,500	会計担当より
計	4,845,782	

<支出>

講師費用	360,620	講師旅費、謝礼
賃料	480,000	2016、2017年度を支払い
人件費	0	全てボランティアのため
集会会場費	635,411	集会時の諸費用
会議費	39,680	幹事会会場使用料など
宣伝費	118,170	チラシ、ニュース印刷費など
通信費	883,328	ニュースの郵送料、電話代など
事務所経費	1,300	光熱費
事務所活動費	496,450	交通費、コピー代など
消耗品費	125,089	事務用品など
雑費	101,256	送金手数料ほか
弁護士支援費	0	資金難により未払い
預り金	38,500	清算後の年度末には残高ゼロ
事業費	970,667	映画借料、署名の会へ寄付金他
計	4,250,471	

差引残高（次年度繰越金） 595,311 円

## 編集後記

ユーキャンを知っている人は多いが、ICAN（アイキャン）を知る人は、まずいない。正式名称を核兵器廃絶国際キャンペーンと言い、2007年結成の国際NGOだ。そのICANがノーベル平和賞を受賞し、一気に認知度が上昇した。7月の核兵器禁止条約の成立への貢献が、受賞理由だ。

残虐兵器である化学兵器、対人地雷、クラスター爆弾は、禁止条約が次々に成立・発効した。ところが、究極の残虐兵器とも言うべき核兵器は禁止されず今日に至った。しかも、先の大戦直後の1946年、国連創設総会の第1号決議では、「核兵器および大量破壊が可能なすべての兵器の廃絶を目指す」と高らかに宣言。にもかかわらず、である。

核保有国や日本政府は背を向けているが、9月20日には53カ国がこの条約に署名した。それぞれの国内手続きを経て批准国が50カ国を超えると条約発効の条項があり、来年度発効の見通しとなった。

「核保有国不参加で実効性はない」との議論もあるが、そうではない。それが証拠に、条約採択に賛同した122カ国に対して、援助資金を鼻先にぶら下げアメリカなどが「署名するな」と水面下で恫喝を加えている。実効性がないのなら、

## 会費・カンパのお願い

17年度会費納入をお願いします。カンパも宜しくお願ひします。

## 【会費・カンパの振込先】

郵便振替でお願いします。

口座記号番号

01610-9-108485

加入者名 伊方原発をとめる会

✓ 画策は不要だ。政治的に極めて強い実効性を持つからこそその策動なのだ。条約採択と署名国数53カ国に、感動をしたのは筆者ばかりではないだろう。歴史は確かな歩みを示した。核兵器はもとより双子の兄弟である原発もまた、やがて廃絶に向かうことは必至であろう。

今号も編集に苦勞した。より読み易く、より親しみ易くと念じつつ、だが、果たして出来栄は？

## 当面の予定・お知らせ

●伊方原発をとめる会、えひめ県民署名の会関係

- 12/10 (日) 13時～ JR 高松駅前広場 STOP!! 伊方原発 高松集会
- 12/17 (日) 9:40 東温中央公民館集合 東温市署名集中アクション (第2回)
- 12/26 (火) 14時松山地裁集合 福島原発事故損害賠償訴訟 第13回口頭弁論
- 1/14 (日) 「日本と再生」西条上映会 10:30、14:00 ひうち会館
- 1/20 (土) 13時～ 伊方町内 STOP! 伊方原発現地集会
- 2/13 (火) 15時～ 高松高裁抗告審第2回審尋 松山発 12:00 (予定)
- 3/31 (土) えひめ県民署名最終集約日
- 5/16 (水) 15時～ 高松高裁抗告審第3回審尋 松山発 12:00 (予定)